

森林研修所ニュース

平成27年4月
No. 72

【ウメ】

●花言葉：高潔、澄んだ心 ●花期：3月上旬～中旬

●特性：花は八重咲きの中輪で、白花、絞り、紅花など、枝によって花の色が様々に異なる。

※研修所構内にて撮影(平成27年3月)

平成27年度 研修実施計画 の概要紹介

森林技術総合研修所では、森林・林業基本計画の実現に向け、森林の有する多面的機能の発揮や、林業の持続的かつ健全な発展等に必要な知識・技術を備えた技術者を育成する研修を実施しています。

平成27年度に行う86コースの概要を、本ニュースのP.1～5でご紹介します。

86コースの内訳は、集合研修84コース(東京都八王子市にある本所で59コース、群馬県沼田市にある林業機械化センターで25コース)と、通信研修2コース(森林活用、治山・林道)です。

平成26年度に行った研修からの主な変更点は、次のとおりです。

1. 本所(八王子市高尾)で行う研修

(1) 研修対象者の拡充

一般職新採用研修の対象者を、採用者全員としたうえで「大卒程度」と「高卒者」の2コースに分割。

※平成26年度の「森林・林業基礎研修」は、「林学」「林業」区分以外の採用者(「土木」「行政」等)のみを対象として、学歴にかかわらず同一カリキュラムで同時に実施。

(2) 複数回実施

受講希望者の多い「森林計画研修」を、2回実施。

(3) 計画日数の追加

研修の効果を高めるため、特用林産研修や森林立地研修等の8コースについて計画日数を1日追加。

2. 林業機械化センター(沼田市根利)で行う研修

(1) 森林作業道の作設に係る研修の新設

地域において、森林作業道作設指針を踏まえた作設を推進させるため、林業事業体の代表者等を対象とした「森林作業道作設推進者研修」を新設。

(2) 研修対象者の拡充

林業機械体験研修などの対象者に、林業高等学校等の教員等を追加。

(3) 国有林野事業職員の技術力向上を目的とした研修の実施

下刈作業を行う請負事業体に対して、現場で適切な安全指導ができるよう、チェーンソー伐木造材研修のカリキュラムに刈払機の操作方法等を追加。



・オトメツバキ

平成27年度 研修実施計画



○研修の詳細を記載した研修実施計画は、森林技術総合研修所のHP（URLは次のとおり）に掲載しています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyu.html>

○研修名称のうち、ローマ数字（大文字：同一のカテゴリ内であることを表示、小文字：回数）を、アラビア数字（回数のみ）に変更しました。

森林・林業の再生、林業の成長産業化に向けた取組の推進に必要な知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員	実施時期
1・2	森林計画1・2	森林計画制度の体系とその運用 各種森林計画の概要と意義 森林計画作成(ゾーニング)演習	地方公共団体職員、森林管理局職員等(業務経験年数がおおむね3年以下の者)	各 35	①6/29～7/3 ②10/5～10/9
3	市町村林務担当者基礎	市町村担当者に必要な森林・林業の基礎知識 国及び都道府県における森林・林業再生に向けた施策の概要 森林総合監理士の役割と地域との関わり 森林・林業の構想としての市町村森林整備計画の意義	市町村林務担当職員	20	5/18～5/22
4	木材産業・木材利用(基礎知識)	木材産業・木材利用の現状と課題 木材の生産・加工・流通の基礎知識 木造建築・住宅資材の基礎知識	地方公共団体職員、森林管理局職員等(初任者レベルの者)	35	6/29～7/3
5	木材産業・木材利用(実践)	木材産業・木材利用の現状と課題 木材の流通・加工 住宅資材、技術開発 木造公共建築物の動向	地方公共団体職員、森林管理局職員等(初任者レベルの者を除く。)	35	1/19～1/22
6	木質バイオマスのエネルギー利用	最新の木質バイオマスのエネルギー利用の現状と課題 海外で普及定着している木質バイオマスのエネルギー利用 国内での先進的な取組事例(供給体制を含む。) エネルギーによる木材の地産地消に向けた取組方策の検討	地方公共団体職員、森林管理局職員、森林総合監理士等	30	7/22～7/24
7	公共建築物等木材利用促進(構造設計)	建築基準法の解説・木造技術の最近の動き 中大規模木造のための木質系材料の知識 木造建築物の構造計算	地方公共団体職員等	40	6/8～6/12
8	公共建築物等木材利用促進(意匠設計)	建築基準法の解説・木造技術の最近の動き 中大規模木造のための木質系材料の知識 木造建築物の意匠設計	地方公共団体職員等	40	6/23～6/26
9	木材輸出戦略	木材輸出を巡る最近の情勢、輸出国先の規格・規制、商慣行 木材輸出事例の分析、森林認証 製品等の付加価値を高めた輸出促進の戦略の検討	地方公共団体職員、森林管理局職員等	30	11/24～11/27
10	森林総合監理士フォローアップ(目標林型と森林施業)	森づくりの基本的な考え方 目標林型と施業の選択、誘導策 森林施業の省力化に向けた最新の知識・技術(コンテナ苗の活用を含む。) 生物多様性に配慮した森林管理(鳥獣害対策を含む。)	森林総合監理士等	20	10/19～10/23
11	森林総合監理士フォローアップ(木材安定供給:流通編)	最近の木材価格、需要者ニーズの動向 木材生産現場での取組事例(採材・選別・工程等) 製材・合板工場等に入荷する素材の取引、加工・販売の現状把握	森林総合監理士等	20	10/14～10/16
12	森林総合監理士フォローアップ(木材安定供給:利用編)	木材利用の現状と課題、新規用途の開発・利用状況 A材・大径材等のカスケード利用 川下のニーズに即応した供給体制	森林総合監理士等	20	12/7～12/11
13	森林総合監理士フォローアップ(作業システム)	作業日報の重要性と生産コストの算出・分析 地域の実情に応じた作業システムの検討	森林総合監理士等	20	10/26～10/30
14	森林総合監理士フォローアップ(課題解決)	問題と課題の適切な把握(講義) 活動事例に基づく課題解決の実践(演習)	森林総合監理士等	20	2/3～2/5
15	森林総合監理士育成技術	平成27年度森林総合監理士育成研修の進め方 局職員講師の役割の確認、民有林制度・施策の概要 伝える技術	森林管理局職員(森林総合監理士育成研修担当者等)	40	5/25～5/29

森林整備の推進、森林保全の確保及び山村の活性化の推進に必要な知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員	実施時期
16	生物多様性保全(理論編)	生物多様性をめぐる動き 森林生態系と生物多様性 生物の多様性を豊かにする森林管理 生物多様性保全の評価	地方公共団体職員(生物多様性保全の業務に携わる者)、森林管理局職員(生態系管理指導官、森林施業調整官等)、森林総合監理士等	20	8/24～8/28
17	生物多様性保全(実習編)	猛禽類の生息環境の保全や生物多様性保全のための森林管理 生物多様性保全のためのフィールド調査	地方公共団体職員(基礎的知識を有する者)、森林管理局職員(生態系管理指導官、森林施業調整官等)、森林総合監理士等	20	10/26～10/30

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員	実施時期
18	森林調査	森林調査の最新技術 森林調査と空中写真判読	地方公共団体職員、森林管理局職員等(業務経験年数がおおむね3年以下の者)	25	11/9～11/13
19	レーザ航測活用	レーザ航測の概要 レーザ航測技術の活用 レーザ航測による事業の実際	地方公共団体職員、森林管理局職員等	20	9/14～9/18
20	森林施業技術	森林の多面的機能発揮のための森林施業 低コストな森林施業の最新の知識及び技術 公益的機能に配慮した森林施業の取組	地方公共団体職員、森林管理局職員等	25	8/3～8/7
21	森林保護管理(病虫害)	森林保護行政の現状と課題 森林病虫害の現状と防除対策	地方公共団体職員、森林管理局職員等	32	7/21～7/24
22	森林保護管理(獣害)	森林保護行政の現状と課題 鳥獣管理を巡る情勢 野生鳥獣の保護管理と森林施業	地方公共団体職員、森林管理局職員、森林総合監理士等	24	11/16～11/20
23	森林総合利用	森林総合利用の現状と課題 森林環境教育等の課題と企画・運営 森林環境教育等の実施に必要な知識	地方公共団体職員、森林管理局職員等(実際に森林環境教育等の業務に携わっている者)	20	7/13～7/17
24	特用林産	特用林産物に関する知識、生産技術 安全な特用林産物の供給 特用林産物を活用した地域振興の取組(現地実習を含む。)	地方公共団体職員等	20	9/7～9/11
25	山村活性化	山村と都市や企業等の連携 地域資源を活用した地域づくり 企画立案実習	地方公共団体職員、森林管理局職員等	20	12/15～12/18
26	森林整備事業	森林整備事業の概要、森林整備の新たな取組 施業集約化の取組 効率的な作業システムの構築 継続的に利用できる路網整備	地方公共団体職員、森林管理局職員等	40	6/1～6/5
27 ・ 28	保安林及び林地開発許可1・2	保安林制度について 保安林管理の実務 保安林解除の実務 林地開発許可について	地方公共団体職員、森林管理局職員等(初任者レベルの者)	各 50	①7/27～7/31 ②11/30～12/4
29	持続可能な森林経営のための推進手法の向上	持続可能な森林経営の概念、基準指標 参加型森林経営手法、森林資源モニタリング手法 国家森林計画の立案手法 行動計画書に基づいた提案書の作成 取りまとめと評価	海外からの研修員	15	8/26～11/6
30	森林立地	土壌の生成、分類、指標植物 土壌の調査手法 環境要因と成立する森林の関係 立地環境と造林、森林管理の関係	地方公共団体及び森林管理局の造林担当職員(指導者レベルの者)、森林総合監理士等	20	9/14～9/18

森林土木(治山・林道)分野における段階的・体系的な知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員	実施時期
31 ・ 32	治山(基礎知識・施設計画)1・2	治山事業の概要 治山事業の実務 工法、監督及び検査、調査・計画・設計、コンクリート、地すべり対策、自然現象の基本的見方と調査方法(総合演習)	地方公共団体職員(業務経験年数がおおむね3年以下の者)、森林管理局職員等(業務経験年数がおおむね3年以下の者、又は「通信研修(治山・林道)」を修了した森林官等及び初任の森林管理署等治山・林道担当者)	30	①6/2～6/12 ②7/7～7/17
33 ・ 34	治山(調査・測量・設計)1・2	治山事業の概要 治山調査・測量・設計の実践 災害復旧	地方公共団体職員、森林管理局職員等(業務経験年数がおおむね5年以下の者で、「治山(基礎知識・施設計画)研修」を修了した者、あるいは同研修修了者と同等の知識を有する者)	各 27	①8/31～9/11 ②9/28～10/9
35	治山(地すべり)	治山(地すべり関連)の先進的知識・技術 地すべり防止事業を取り巻く新たな動き 地すべり防止技術向上のための専門的個別技術 調査、計画、設計等の実務の習得	地方公共団体職員、森林管理局職員等(業務経験年数がおおむね5年以上の者)	30	11/9～11/13
36 ・ 37 ・ 38	林道技術者育成1・2・3	林道(林業専用道を含む。)の設計に関する知識・技術の概要 林道を設計するための基本的な現場実務、林道工事の監督業務 や林道の維持管理に関する知識 施設災害復旧に関する知識・技術の概要 インフラ長寿命化計画の概要	地方公共団体職員(業務経験年数がおおむね3年以下の者)、森林管理局職員等(「通信研修(治山・林道)」を修了した者及び初任の森林管理署治山・土木担当者等)	各 20	①5/19～5/29 ②7/28～8/7 ③10/13～10/23
39 ・ 40	林業専用道技術者1・2	林業専用道の路網計画、作設事例 林業専用道作設後の技術的課題 路網計画に関する現地検討	地方公共団体職員、森林管理局職員等(初級レベルの者を除く。)	各 25	①6/15～6/19 ②7/6～7/10
41	森林作業道作設指導者・監督者	森林作業道の作設方法及び施工管理 路体構造調査 作設路線の評価	地方公共団体職員、森林管理局職員、森林総合監理士等	30	8/31～9/4

林業機械化の推進に必要な知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員	実施時期
42	チェーンソー伐木造材技術	伐木等(安衛則第36条第8号)労働安全衛生特別教育 防護用品の必要性、ISO規格による振動管理	地方公共団体職員	20	6/8～6/12
43	チェーンソー刈払機	伐木等(安衛則第36条第8号の2)労働安全衛生特別教育 刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育 防護用品の必要性	森林管理局職員(採用後5年以上の者)	20	6/22～6/26
44・45	高性能林業機械(基礎)1・2	高性能林業機械の基礎知識 高性能林業機械作業システムの実践 高性能林業機械の指導・普及に必要な知識	地方公共団体職員(初任担当職員、林道事業担当者及び市町村森林整備計画担当者を含む。)、森林総合監理士等	各20	①10/5～10/9 ②10/26～10/30
46・47	高性能林業機械(安全指導・前期)1・2	車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る安全衛生特別教育(学科・実技)	地方公共団体職員(業務経験年数が5年以上であって車両系木材伐出機械等の特別教育の講師等に将来なり得る者)、森林管理局職員(森林官レベル以上の者で「高性能林業機械(安全指導・後期)研修」の受講予定者に限る。)等	各10	①11/9～11/13 ②11/16～11/20
48・49	高性能林業機械(安全指導・後期)1・2	車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る安全衛生特別教育(学科) 車両系木材伐出機械等の法整備の背景・経緯	地方公共団体職員(業務経験年数が5年以上であって車両系木材伐出機械等の特別教育の講師等に将来なり得る者)、森林管理局職員(森林官レベル以上の者で「高性能林業機械(安全指導・前期)研修」の修了者に限る。)等	各10	①1/20～1/21 ②2/8～2/9
50	集材架線	エンドレスタイラー方式の架設・撤去作業の実践 集材機作業に必要な法令及び作業規程 機械集材装置運転業務安全衛生特別教育 集材架線の設計	地方公共団体職員、森林管理局職員(採用後5年以上の者)、森林総合監理士等(「林業架線作業主任者免許」取得者及び「機械集材装置運転業務安全衛生特別教育」修了者を除く。)	15	5/27～6/5
51	森林作業道(基礎技術)	車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)技能講習 森林作業道の作設に必要な基礎技術	地方公共団体職員(初任者レベルの者)	10	7/6～7/17
52	森林作業道(路網連携)	森林作業道作設事例 森林作業道作設と高性能林業機械作業システム実践	地方公共団体職員(森林計画担当者、林道事業担当者)及び森林管理局職員(資源活用担当者)	15	10/19～10/23
53	森林作業道(作設指導)	森林作業道作設事例 森林作業道の作設指導に必要なポイント	地方公共団体職員(「車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)技能講習」修了者相当レベル)、森林管理局職員(業務経験年数が5年以上の者)等	15	9/28～10/2
54	森林作業道(改築技術)	森林作業道作設及び改築事例 森林作業道改築に必要なポイント	地方公共団体職員(「車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)技能講習」修了者相当レベル)、森林管理局職員(首席森林官と同等レベルであって業務経験がある者)等	10	11/30～12/4
55	森林作業道(路網設計・作設)	森林作業道作設及び改築事例 森林整備に資する森林作業道作設のポイント 森林整備に資する高性能林業機械作業システムのポイント 森林整備に資する路網設計の検討	地方公共団体職員、森林管理局職員(首席森林官と同等レベルであって業務経験がある者)	15	6/29～7/3
56	林業機械体験	チェーンソーの知識と伐倒実技 高性能林業機械操作及び作業システムの作業体験	大学生(林業関係学会会員)等	20	8/3～8/6
57	高性能林業機械指導者	高性能林業機械作業の実践 作業システムの構築 森林作業道と作業システムの構造	地方公共団体職員及び森林管理局職員(首席森林官と同等レベルの者)並びに民間事業者職員	7	8/19～8/21
58・59	森林作業道作設指導者育成1・2	地形・地質等に応じた森林作業道の作設実践 改築に必要な知識及び技術 既設森林作業道の比較・検討 森林作業道線形調査	地方公共団体職員及び森林管理局職員(首席森林官と同等レベルの者)並びに民間事業者職員	各7	①5/20～5/22 ②11/25～11/27
60	森林作業道(局別出張等)	森林作業道の作設指導に必要なポイント	森林管理局職員(採用後5年以上の者)等	10	2/1～2/3
61・62・63・64	チェーンソー(局別出張等)1・2・3・4	伐木等(安衛則第36条第8号の2)労働安全衛生特別教育	森林管理局職員(森林官レベル以上の者)等	各20	①7/21～7/23 ②10/14～10/16 ③10/14～10/16 ④2/17～2/19

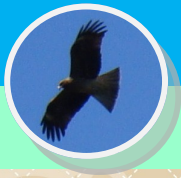
森林・林業行政に携わる者等として必要な基礎的知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員	実施時期
65	総合職新採用	訓辞及び講話 森林・林業の現状と将来 現場実務に必要な技術 等	平成27年度国家公務員総合職採用職員	14	4/20～4/24
66	一般職(大卒程度)新採用	林野庁職員としての心構え 森林・林業・木材産業の役割 公務員としての規範	平成27年度国家公務員一般職(大卒程度)採用職員	68	4/7～4/10
67	一般職(高卒者)新採用	林野庁職員としての心構え 森林・林業・木材産業の役割 公務員としての規範	平成27年度国家公務員一般職(高卒者)採用職員	32	4/14～4/17

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員	実施時期
68	森林技術者企画力アップ	森林・林業における各分野の動向 施策の企画・立案に向けた自己啓発能力の向上	林野庁・森林管理局職員等(4Gの職員)及び地方公共団体職員(国家公務員4G相当)	30	12/7～12/11
69	研修企画運営実務	研修企画に必要なスキル 研修の運営 研修評価・改善の実務	地方公共団体、林野庁(森林技術総合研修所を含む。)及び森林管理局の研修実務担当者	24	1/26～1/29
70	女性林業人材の採用・育成	森林・林業分野における女性の雇用の現状と課題 森林・林業分野における女性の活動事例 女性の定着・能力発揮に向けた取組	林業事業者又は林業団体の管理者、人材育成担当者等	15	12/3～12/4

国有林野事業職員の能力向上に資する知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員	実施時期
71	森林作業道作設推進者	森林作業道作設事例 森林作業道作設実践 安全管理 森林作業道推進者への期待	林業事業者の代表者等	15	11/4～11/6
72	署長	国有林野事業の経営環境 組織運営能力の向上	森林管理署長の職(これと同等と認められる職を含む。)に初めて任用された職員	20	5/12～5/15
73	総括官等技術	森林・林業・木材産業の現状と課題 森林施業技術とシカ被害対策 業務の適切かつ円滑な実施	総括森林整備官を中心に、森林管理署等において技術指導を行う者	25	6/15～6/18
74	発注者綱紀保持	入札制度、談合、経済法等 他省庁や地方公共団体における先進的取組事例研究	森林管理局契約発注担当職員等(業務経験年数がおおむね2年以下の者)	14	6/24～6/26
75	健康安全管理	健康安全管理体制の強化 健康管理指導能力の向上 安全管理指導能力の向上	森林管理局の安全衛生係長、局・署の健康・安全管理担当者等の健康及び安全管理に関する実務的指導の担当職員(業務経験年数がおおむね2年以下の者)	14	8/25～8/28
76	森林ふれあい	森林ふれあいのあり方、自然体験活動のあり方 地域の関係者との連携 森林環境教育の実践	森林管理局職員(局・署において実際に森林ふれあい業務に携わっている者)	20	9/28～10/2
77	木材安定供給(販売)	政策としての販売・生産事業 木材産業の現状と課題 木材の流通と販売 国有林材における安定供給の取組	森林管理署等の収穫・生産・販売担当職員(業務経験年数がおおむね2年以下の者であって、「木材安定供給(生産)研修」の受講予定者)	20	6/15～6/19
78	木材安定供給(生産)	森林作業道作設方法等の実習 現地に応じた作業システムの選定及び実践	森林管理署等の収穫・生産・販売担当職員(業務経験年数がおおむね2年以下の者であって「木材の安定供給(販売)研修」を修了した者)	20	9/9～9/18
79	情報処理(刷新システム等技術者養成)	OLAP機能による情報分析 情報セキュリティ 国有林野関係システム、新規機能の活用	森林管理局の情報処理担当職員等(業務経験年数がおおむね2年以下の者)	14	5/12～5/15
80	情報処理(森林GIS技術者養成)	国有林GISの新機能と業務への活用 民有林における森林GISの活用事例	森林管理局のGIS担当職員等(業務経験年数がおおむね2年以下の者)	14	1/27～1/29
81	GNSS測量等技術者養成(人工衛星による測量)	GNSS測量技術の現状と課題 GNSS測量における基礎知識 GNSS測量の実習・演習	森林管理局の測定業務担当者等(業務経験年数がおおむね2年以下の者)	20	12/15～12/18
82	流域管理・民国連携推進	民有林施業の概要、国有林における民国連携の取組 生物多様性保全に配慮した管理経営及び森林被害対策 木材産業施策の課題と今後の展開方向	森林管理署の森林技術指導官等、森林総合監理士を目指す職員	14	2/22～2/26
83	地域対応力向上	効果的な情報の発信 地域の声を引き出し、把握する 地方行政の現状と課題(企画を担当している自治体職員から) 合意形成の技術、具体的な業務を想定した演習	森林管理局等職員(地域関係者との窓口となる者(地域林政調整官、森林技術指導官、地域統括森林官等))	20	2/15～2/19
84	国有林野の活用実務	国有林野管理処分業務の概要及び実務 国有林野の鑑定業務の実務等 国有林野の利活用業務の実務	森林管理局職員(鑑定官、計画処分及び貸付担当職員等)	25	7/7～7/10
85	通信研修(森林活用)	国有財産制度、国有林野管理に関する基礎知識 分収林制度に関する基礎知識 国有林野等貸付・使用等に関する基礎知識 森林空間総合利用に関する基礎知識 国有林野の処分に関する基礎知識	森林管理署職員等	40	6/2～3/23
86	通信研修(治山・林道)	治山に関する基礎知識 林道に関する基礎知識 土質に関する基礎知識 測量に関する基礎知識 水理に関する基礎知識	森林管理署職員等	20	6/2～3/23



新技術を求めて ～マルチコプターの活用～



教務指導官 高木 敏

昨年の冬、ソチオリンピックのスロープスタイルをTVで観ていたときの事です。選手の横を飛ぶマルチコプターが撮影した映像は、初めて見るアングルで、映画ではないかと思うほど新鮮に感じた記憶があります。

当研修所では、森林の状況をリアルタイムで確認することができるこの新技術に注目し、昨年11月の森林調査研修の中で、マルチコプターのデモンストレーション飛行を行いました。

デモ飛行の際に見た映像は想定よりも鮮明で、ホバリング（空中に静止した状態）で撮影したものにも揺れ・傾き、さらに微振動はほとんどありませんでした。



実習には4枚羽根と6枚羽根の2機種が持ち込まれました

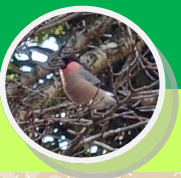


多くのスイッチを備えた操縦装置

今後は、上空から撮影した森林の映像を、収穫調査での伐区や標準地設定、林業専用道等の検討、豪雨・台風等の災害調査など様々な場面で活用することが期待されます。

ある森林管理署では、既に機体を購入し、職員自らが操縦・撮影した映像等を一部業務に活用していると聞いています。

この新技術は、操縦・撮影技術、機械性能の向上等により今後急速に普及し、森林・林業の成長産業化の一助になるのではないかと考えています。



古くても大事な技術 ～森林土壌調査実習～

教務指導官 伊藤 香里



森林土壌のA層やB層などの話は、学校で一度は習ったけれど、その後は業務の中でもなかなかじっくりと観察する機会がないものです。

平成26年度に新設した「森林立地研修(9月9日～12日)」では、滝ノ沢国有林に出向き、森林土壌の断面の観察方法や土壌型の判定方法を学ぶ森林土壌調査実習を1日かけて行いました。



森林土壌は見た目も内容も深いことを実感

小雨の降る当日の作業は、3か所に分かれて穴掘りから。研修生が交代で唐鍬とスコップを振るい、ひたすら斜面を掘ります。その深さは約100cm。途中で石に当たった班は、かなり苦労されたようです……お疲れ様でした。

断面を講師が手際よくコテで整形した後、土色や土壌型の分類、根系の観察方法などを丁寧に指導していただきました。

後日、研修生から「早速、若手向けの職場研修で、土壌断面の観察をやってみました」といううれしいお便りも届いています。

※P.6～8の職名は、原稿執筆当時のものです。



森林総合監理士フォローアップⅤ（課題解決）研修

【研修生として】

北海道上川総合振興局 北部森林室普及課 専門普及指導員 鳥居 宏臣

平成27年2月25日（水）～2月27日（金）の3日間、森林技術総合研修所にて森林総合監理士等を対象としたこの研修を受講しました。

研修生は、北海道から九州までの15名で、皆さんはこの研修所を数回利用した経験のあるベテラン揃い。初めて利用するのは私のみという緊張気味のスタートとなりましたが、とても暖かく対応していただき、和やかな雰囲気を受講することができました。

今回の研修で特に印象に残ったのは、地域の問題・課題を的確に把握することは、とても難しいという点です。問題・課題を決め付け、相手に押し付けようとする、違う方向に進んでしまう場合が多々あるからです。

このような事態を防止するためには、地域の方々が普段本当に思っていることを聞けるような信頼関係を築くことが大切で、最も現場に近い普及指導職員がお互いに情報を共有し、解決に向け努力をする重要性を改めて感じました。

今後は、今回学んだ知識を活かし、地域の問題と課題の解決に向けて実践したいと思います。

最後に、3日間にわたり共に学んだ研修生の皆さん、講師の先生方、お世話いただきました研修所の皆様に感謝したいと思います。ありがとうございました。



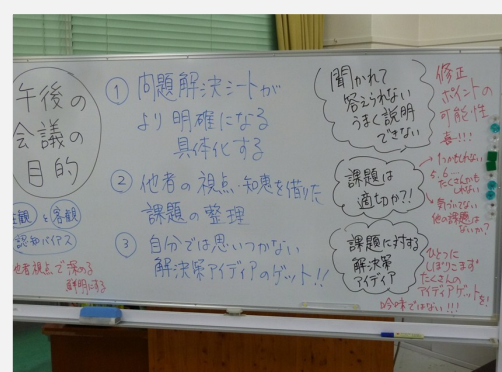
4班に分けて行われたグループワーク



【林野庁担当者として】

林野庁研究指導課 森林保全専門官 吉田 正博

この研修は、森林総合監理士フォローアップ研修（全5コース）の中でもやや特異な位置付けとなっています。このため、研修の目的を、他のコースのような個別分野の知識・技術の補強とはせず、「課題解決能力」という総合的な資質のレベルアップとしました。



課題解決に向けたヒント

3日間の日程で研修生の理解をより深めるため、カリキュラムには講義と演習の内容をリンクさせ、できるだけ具体的な事例を提示するような工夫が施されています。

また、職場に帰ってすぐに森林総合監理士活動に活かすことができるよう、自身が抱える問題の解決に向けたプロセスを整理する個人ワークの時間を多くとり、個人ワークとグループワーク（模擬的な企画会議）を繰り返しながら「行動計画」を練り上げる構成としています。

演習を中心とした3日間の短い研修でしたが、初日から研修生同士が打ち解け合い、活発で熱のこもった意見交換をする姿がみられました。



各地へ飛んで技術指導 ～出張研修の報告～

林業機械化センター所長 三原 隆義

平成26年度の新たな取組として、林業機械化センター職員が各局へ出張して行う森林作業道（2か所）、チェーンソー（3か所）の研修を計画し、このうち北海道森林管理局管内の国有林で9月に実施した研修の様子については、本ニュースの10月号（第70号）及び1月号（第71号）でお伝えしたところです。

本号では、四国森林管理局（四万十署管内）と九州森林管理局（宮崎署管内）でそれぞれ3日間にわたって実施したチェーンソーの出張研修の様子を報告します。チェーンソーの出張研修は、安全かつ効率的な伐木造材等の指導・監督ができるようになるとともに、民有林の森林整備を支援するために必要な技術力を目的としました。

研修生は四国局20名、九州局19名の国有林野事業職員で、教務指導官、機械化指導官等から伐木造材に関する基礎的な知識及び技術、チェーンソーの取扱い方法を学んだ後、現場でチェーンソーを使用し、伐木の基本である丸太の鋸断や伐倒時の受け口の



枝払いの手順、コツを指導

切り方、枝払い方法などの指導を受けました。

林業の現場で災害が最も多く発生するのは、「かかり木」を処理するときです。実習を通じ、これを安全に行うための具体的な手順や留意点を学びました。

さらに、ソーチェーンの目立て方法によって切れ味や振動に違いが出ることを体験し、健康障害防止や危険作業の回避に必要な技術も身に付けました。

それぞれの現場に戻った本研修の修了者が、請負事業者等に対し自信をもって安全指導等を行っていただけるよう願っています。

各森林管理局の担当の皆様には、研修の準備や運営等にご尽力いただき、ありがとうございました。

平成27年度は、東北森林管理局や近畿中国森林管理局など4局の職員を対象とした「チェーンソー（局別出張等）研修」、関東森林管理局職員を対象とした「森林作業道（局別出張等）研修」を、各地で実施する予定です。



安全に留意した鋸断方法を基礎から学ぶ



刃をヤスリで研ぐ“目立て”の講義



四国森林管理局研修生の皆さん



九州森林管理局研修生の皆さん



国有林のフィールドで得られた試験・研究成果を研修に利活用

3月17日（火）、茨城県つくば市にある独立行政法人森林総合研究所（※）で、林業機械化推進研修・研究協議会の平成26年度役員会が開催されました。

平成17年に発足したこの協議会は、関東森林管理局が提供する国有林内において林業機械や路網に関する試験・研究を行い、その成果を研修や業務に利活用していく取組を行っています。



役員会の冒頭で挨拶をする瀬戸所長

この日の出席者は、森林技術総合研修所の瀬戸宣久所長（協議会会長）、森林総合研究所の鈴木信哉理事、陣川雅樹林業工学研究領域長、関東森林管理局の寺川仁森林整備部長、利根沼田森林管理署の永井寛署長等の約20名。

国有林のフィールドを活用し、林業機械化センター職員等が実験準備やオペレータとしても関わって平成26年度に実施された4つの試験研究課題について、研究成果の概要発表と活発な質疑応答が行われ、今後も試験・研究の実施とその成果の普及を円滑に推進していくことを申し合わせました。

※平成27年4月1日から、国立研究開発法人森林総合研究所に名称変更



消防訓練で基本的動作を確認

当研修所では、消防法に基づく消防計画を作成し、自衛消防組織を設けるとともに、消防訓練を毎年行っています。万が一火災が発生した場合に備え、職員は、消防隊が到着するまでの間に、庁舎の消防用設備によって組織的な火災対応をとることができるようにしておく必要があります。

3月9日（月）の午後に行った消防訓練は、1階の厨房から出火したとの想定で開始。鳴動させた火災報知器の音を聞いた職員は、まず火元を確かめ、副隊長（総務課長）に報告します。続いて、正面広場への避難を促す館内アナウンス、非常時持出用品や応急救護用品の搬出、隊長（所長）への避難状況の報告等、一連の基本的動作を相互に確認しました。

訓練の支援者である（一社）東京防災設備保守協会の職員から、館内の消火栓にホースを接続しての放水、消火器の操作に係る指導（写真：下2枚）を受けたほか、防火扉が閉まり階段が使えない場合の避難経路（写真：右上）や、消防署への通報時の留意事項等について学びました。

職員一人ひとりが自衛消防組織における役割を再確認したこの訓練を通じて、いざというときもあわてずに効率よく初期動作をとることができるようになり、消防意識も向上しました。



3階からの避難経路を確認



1本15mのホースを持って放水訓練



～狙いを定めて～ 訓練用消火器の噴射（中身は水）

人事異動



退職（定年退職）（平成27年3月31日付け）

長谷川 洋三（経営研修課長）

退職（平成27年3月31日付け）

（国立研究開発法人 森林総合研究所 林木育種センター 海外協力部 海外協力課長へ）上澤上 静雄（教務指導官）

（国立研究開発法人 森林総合研究所 森林保険センター 保険業務部 保険審査課長へ）伊藤 香里（教務指導官）

転出（平成27年4月1日付け）

中部森林管理局 総務課長 油井 章次郎（総務課長）

林野庁 管理課 課長補佐（共済組合給付班担当）三原 隆義（林業機械化センター所長）

関東森林管理局 群馬森林管理署 地域林政調整官 土田 詠子（技術研修課 研修企画官）

林野庁 研究指導課 普及教育班 管理研修係長 須田 茂治（総務課 庶務係長）

関東森林管理局 塩那森林管理署 主任森林整備官 清水 直喜（林業機械化センター 主任機械化指導官）

東北森林管理局 山形森林管理署 最上支署 主任森林整備官 長田 拓也（林業機械化センター 機械化指導官）

四国森林管理局 徳島森林管理署 森林整備官 田中 健（林業機械化センター 機械化研修係長）

関東森林管理局 吾妻森林管理署 上沢渡森林官 栗島 晋司（経営研修課 実施係）

関東森林管理局 日光森林管理署 岩崎 諭（総務課 会計係）

転入（平成27年4月1日付け）

教務指導官 松下 英之（大臣官房 環境政策課 課長補佐（地球環境企画班担当））

教務指導官 小倉 和幸（関東森林管理局 総務企画部 専門官（契約適正化担当））

教務指導官 立岩 久松（環境省 中部地方環境事務所 生物多様性保全企画官）

経営研修課長 荒畑 真（林野庁 業務課 審査官）

林業機械化センター所長 青山 一郎（東北森林管理局 技術普及課長）

技術研修課 研修企画官 中村 陽子（大臣官房 統計部 統計企画管理官付 企画班 総務第1係長）

技術研修課 実施係長 小野 智子（近畿中国森林管理局 三重森林管理署付）

林業機械化センター 主任機械化指導官 泉田 信幸（関東森林管理局 下越森林管理署 事務管理官）

林業機械化センター 機械化指導官 鶴田 直人（東北森林管理局 山形森林管理署 最上支署 森林整備官）

林業機械化センター 中澤 さつき（関東森林管理局 利根沼田森林管理署 谷地森林官）

林業機械化センター 山下 茂樹（四国森林管理局 徳島森林管理署 森林整備官）

総務課 岩下 祐子（関東森林管理局 下越森林管理署）

内部異動（平成27年4月1日付け）

総務課長 高木 敏（教務指導官）

総務課 庶務係長 内藤 晴敬（技術研修課 実施係長）



森林技術総合研修所 http://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyuuu_zyo.html

〒193-8570 東京都八王子市廿里町(とどろまち)1833番地94

TEL 総務課：042-661-7121 / 教務指導官室：042-661-3560

技術研修課：042-661-3565 / 経営研修課：042-661-3567

FAX 042-661-7314

林業機械化センター http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikai/kikai_ka_senta.html

〒378-0312 群馬県沼田市利根町根利1445 TEL 0278-54-8332 FAX 0278-54-8280